

2025.11.5

「浪江駅西側地区共創会議」

FUKUSHIMA
WWW.



©Copyright 2025 READY SOCIAL inc. All Rights

Reserved.



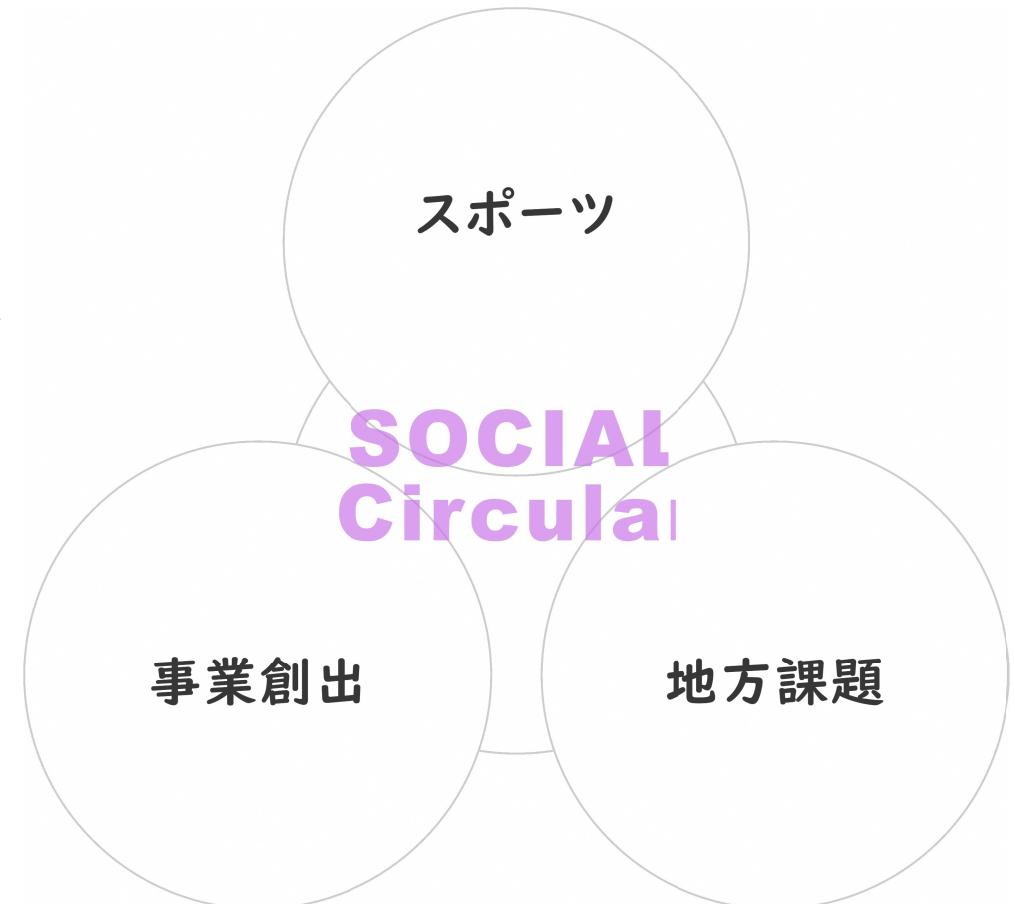
概念図

スポーツを活用した地域活性

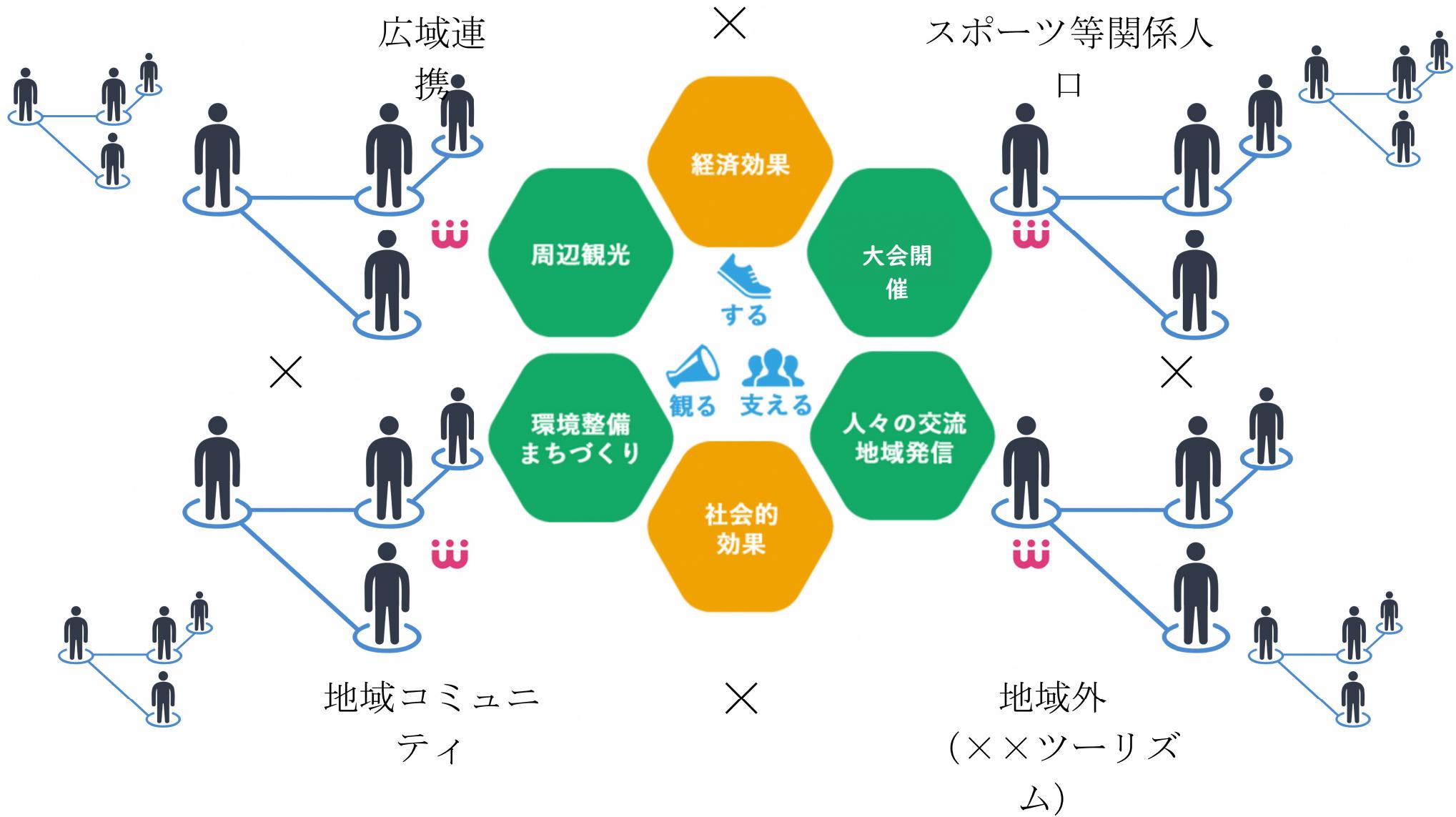
スポーツの持つチカラは感動歓喜だけではなく、
スポーツ選手の移住、域内/域外のコミュニティーの
形成、地元企業との協業、スポーツツーリズム、賑わい創出

望む効果

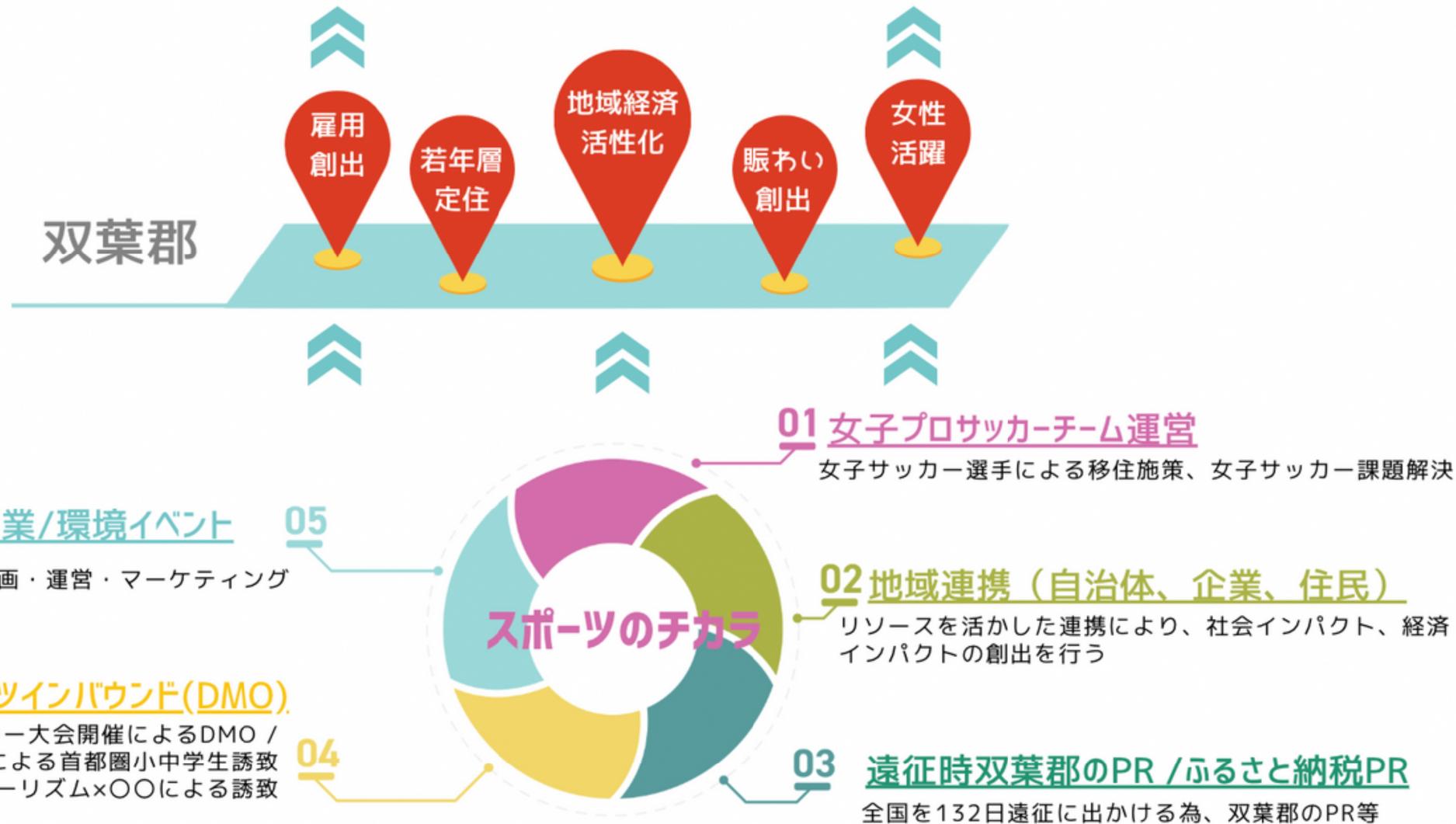
- ・浪江町におけるWell-Being（健康促進等）
- ・地域コミュニティの活性化
- ・賑わい創出（スポーツDMOや地域イベント誘客）
- ・フレイル予防と医療サポート
- ・ダイバーシティとインクルージョンの実現
- ・地域のコミュニティ拠点の創出



私たちが地域のハブとなりコミュニティー形成の加速

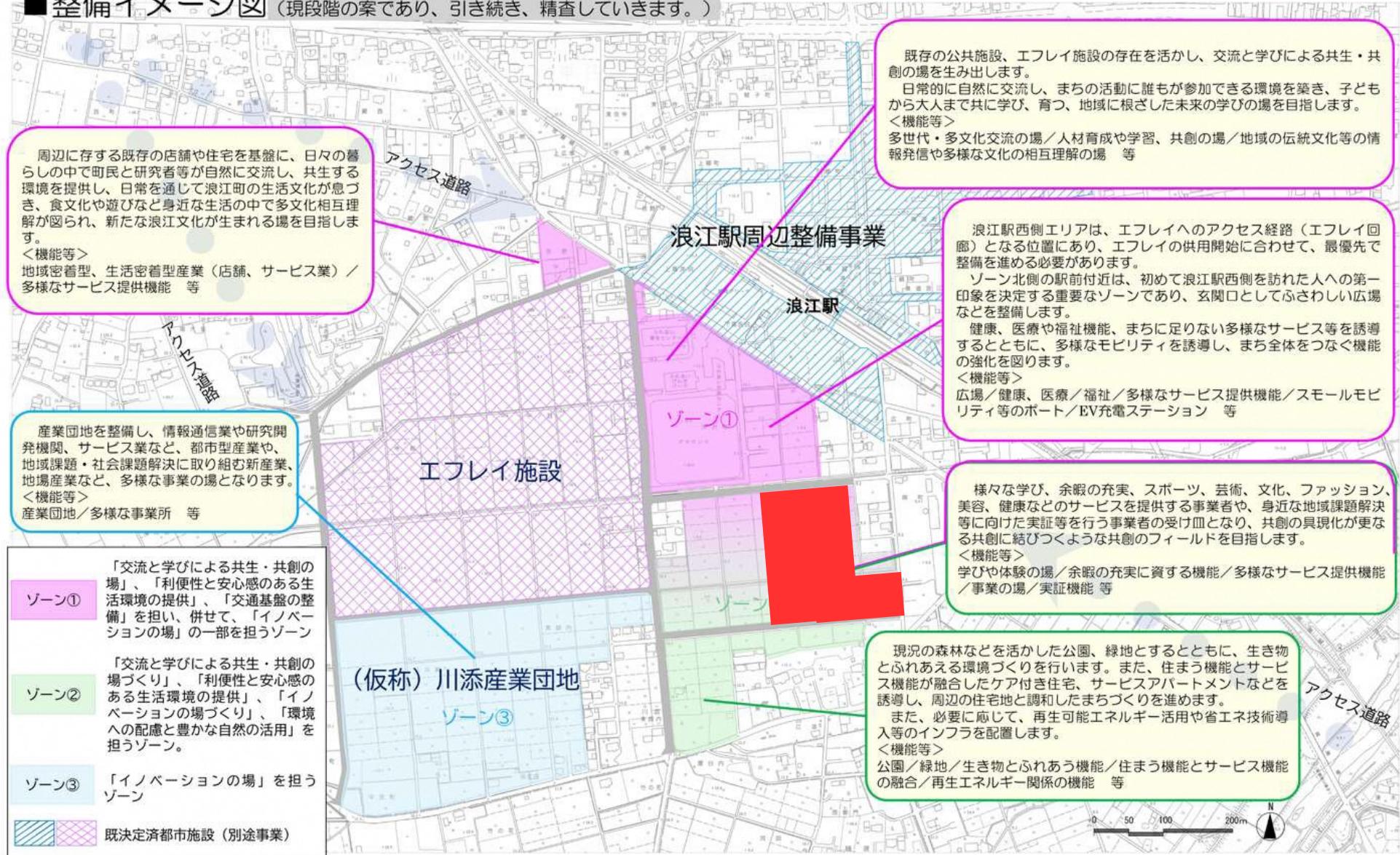


スポーツのチカラを活用した地域活性



西側地区

■整備イメージ図 (現段階の案であり、引き続き、精査していきます。)



提案) コミュニティパーク構想



FUKUSHIMA
WWW
NAMIE
WE ARE

PARK

【用途】

- ・ EU式サッカースタジアム 数】 3,000人
- ・ イベント会場 6,000人
- ・ 多目的広場 用途毎
- ・ 音楽フェス 6,000人
- ・ 付帯)オンライン医療モール
- ・ 付帯) ウェルネスエリア
- ・ コミュニティースペース
(フレイル対策、交流)

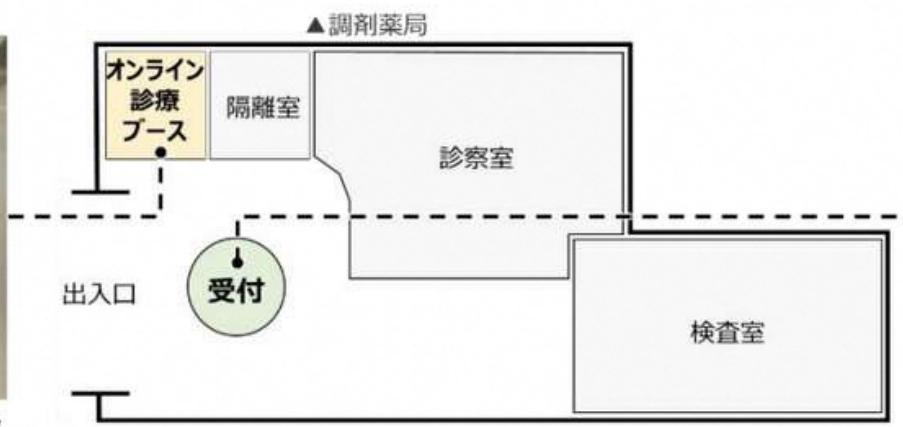


ボッチャやグラウンドゴルフなど多目的の活用が可能

提案)付帯)オンライン対応付医療モール

オンライン医療モール効果予測

地方にオンライン診断ができる医療モールを設けることで、高血圧や糖尿病といった生活習慣病の診療を自宅から受けられます。これにより、地域の病院の負担を減らし、さらに診断と並行して健康トレーニングにも参加できるため、住民一人ひとりの健康改善に繋がります。



(8) 特 徴

① オンライン診療ブース・デジタル観察ツール(聴診器)導入

クリニック内に設置するオンライン診療ブースにより、対面での診療時間以外の早朝・夜間・休日にも受診することができるようになります。さらに、デジタル聴診器などの遠隔観察ツールを活用することで患者さまの状況を正確に把握できます。

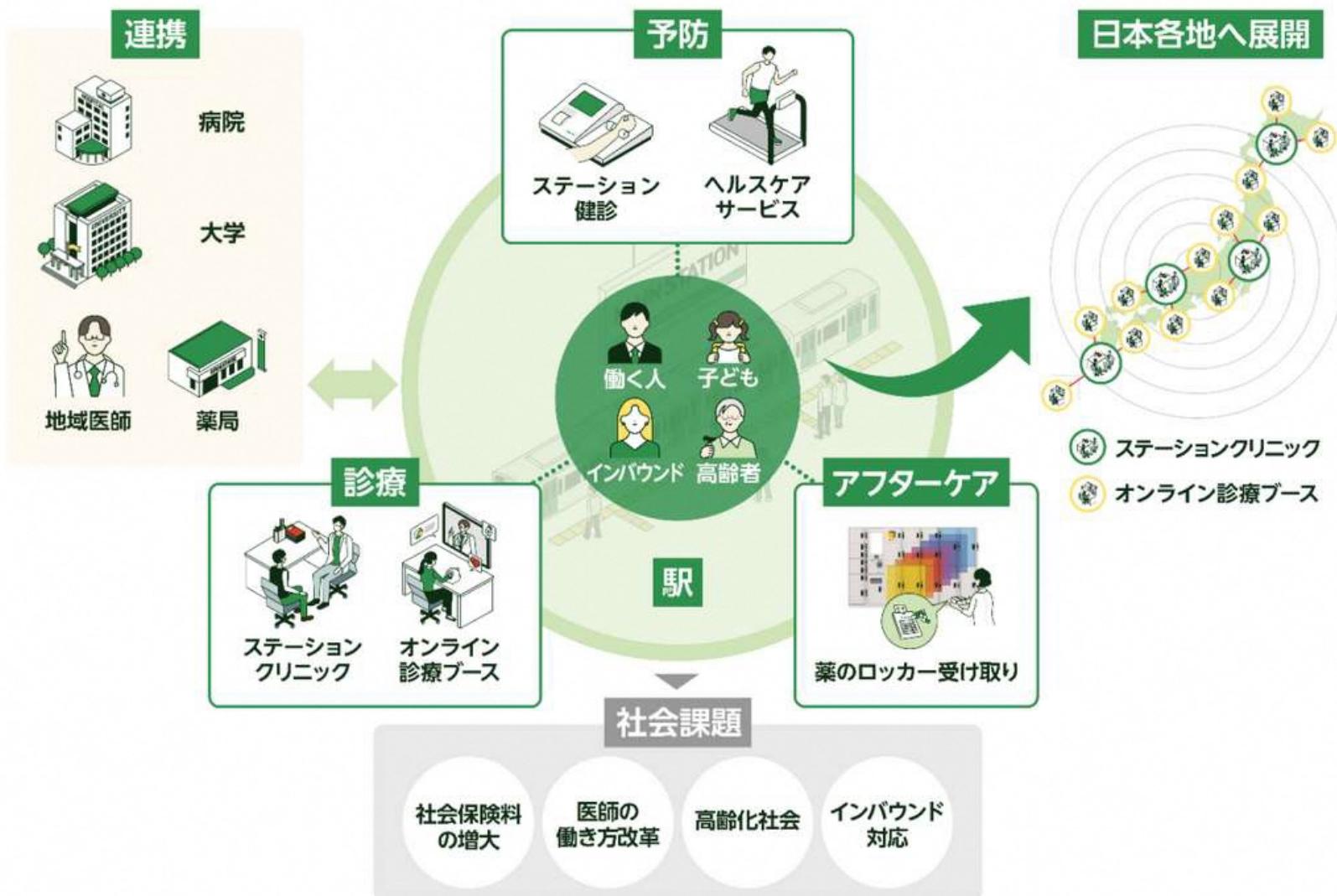


デジタル聴診器

事例：医療

【参考 1】「スマート健康ステーション®」について

JR 東日本グループは、生活活動線上にある「駅」を起点として、JR 東日本グループのネットワークを活かし、オンラインを活用した予防から診療そして診療後までのトータルヘルスケアサービス提供を通じ、お客様の居住場所や時間にとらわれない「心豊かなくらし」の実現を目指します。「スマート健康ステーション®」の展開を通じて、“社会保険料の増大” “地方における生活インフラサービスの維持” “医師の働き方改革 2024 年問題”など社会的な課題解決にも貢献していきます。



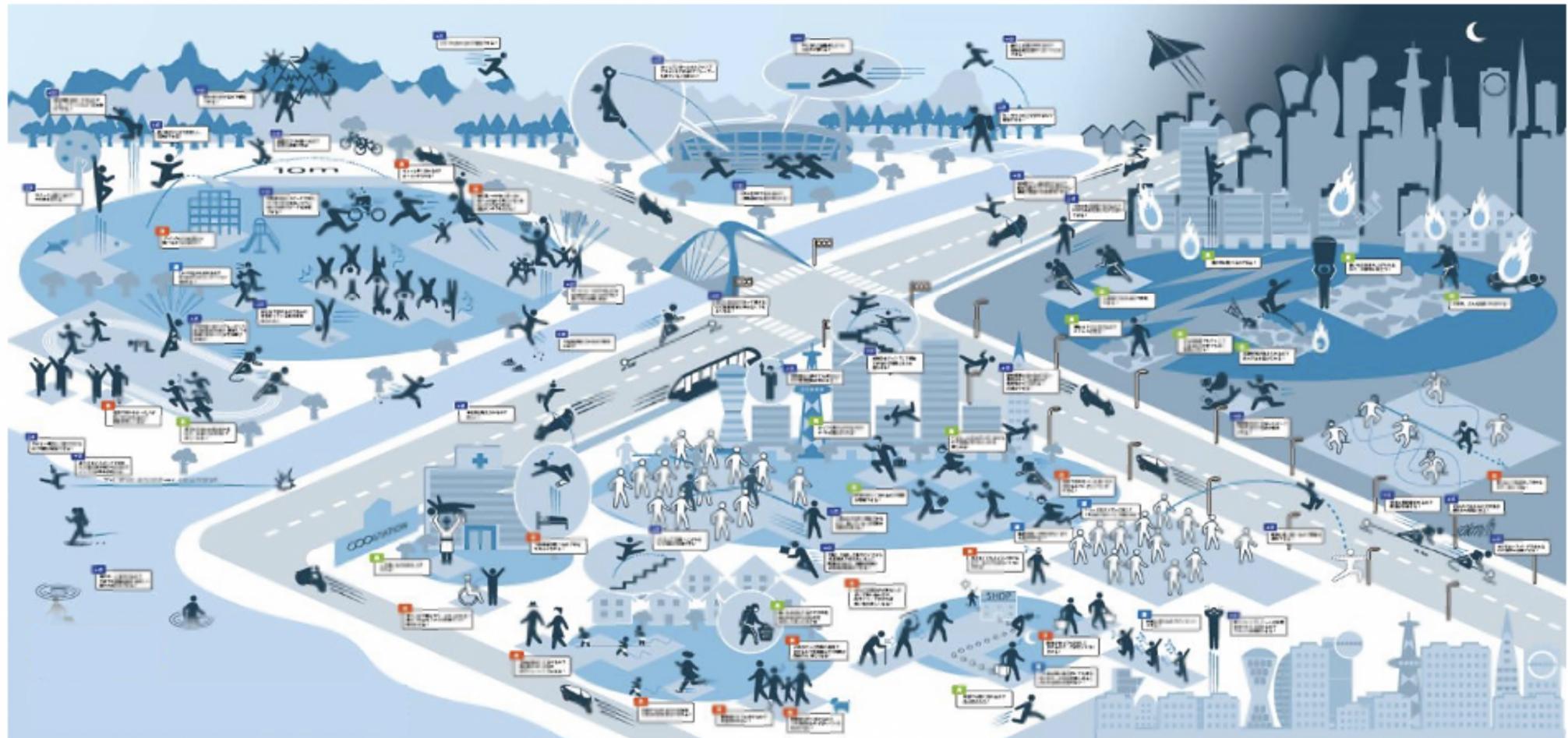


POWERED LIFE

ミズノ株式会社



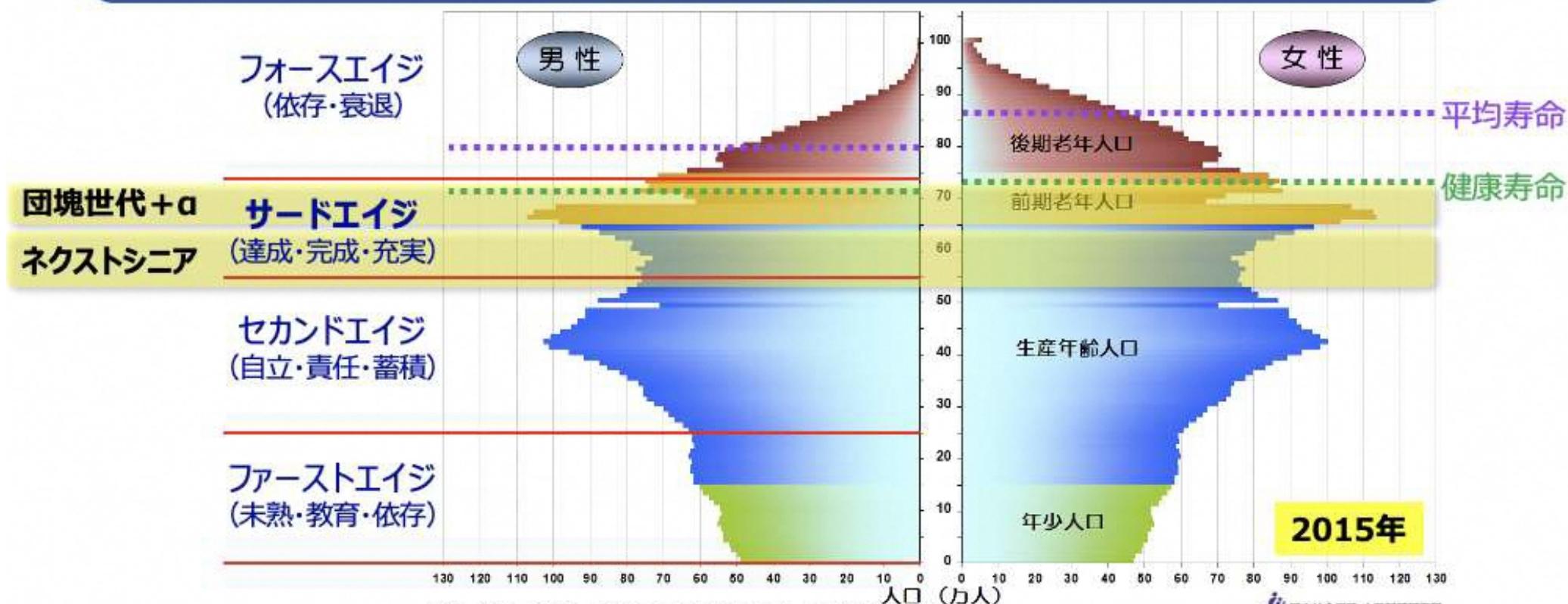
サードエイジ(≒シニア。取り組み対象年齢 = 55~74歳)をはじめ、
障がい者/妊婦/子供/ワーカー/健常者etcが、
『自らの身体を使って、よりアクティブに暮らす活気のある社会』を、
ミズノのスポーツテクノロジーで実現する



サードエイジ(55~74歳)=ネクストシニア+団塊世代

- ・「昔は出来ていたこと」ができなくなったら、**身体活動**することが億劫になる
- ・以前と同じように歩けるから、もっと歩こうとなれば、**機能低下度合**を遅らせることができる
- ・平均寿命の伸びよりも、健康寿命の伸びが大きければ、**ギャップ**が縮まり健康で長生きできる

サードエイジ	ネクストシニア 団塊世代+a	2018年: 55~67歳 2025年: 62~74歳 2018年: 68~74歳 2025年: 75~81歳	2,070万人 1,260万人	3,330万人
--------	-------------------	--	--------------------	----------------



資料：1965～2015年：国勢調査、2020年以降：「日本の将来推計人口（平成29年推計）」。

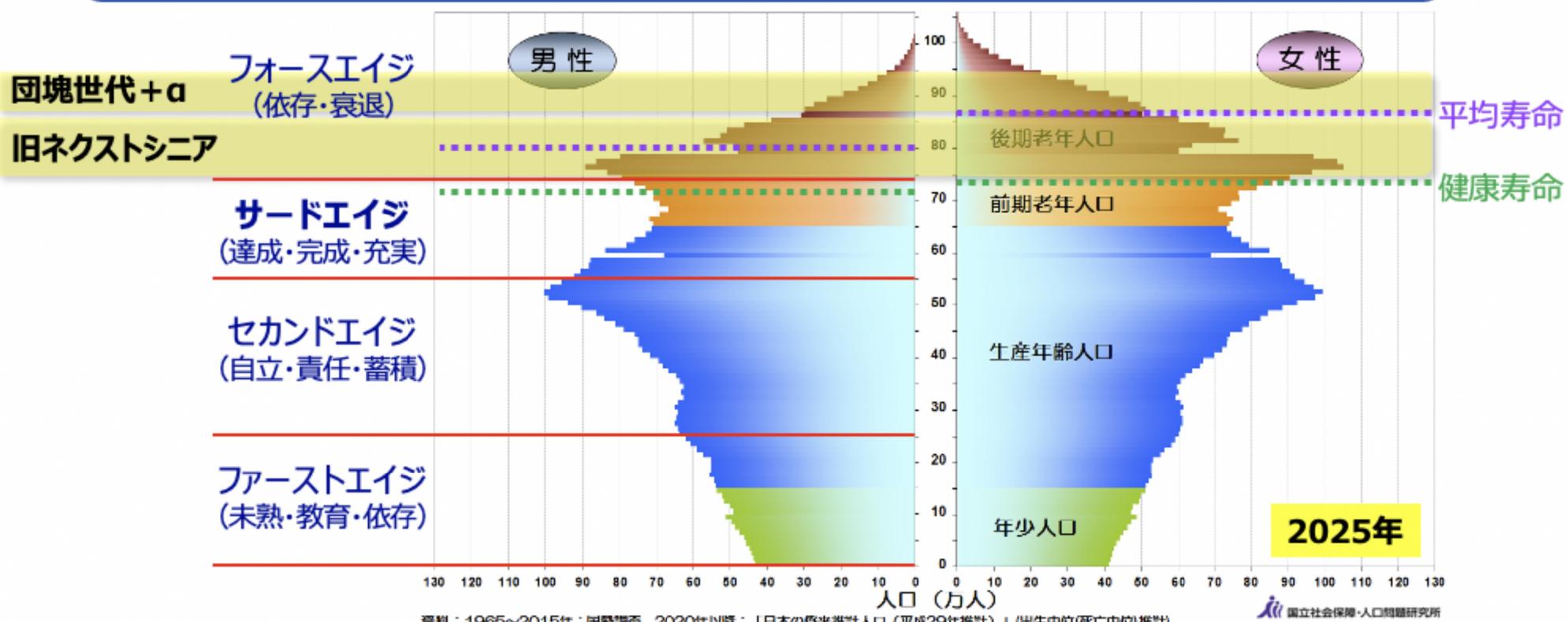
国立社会保障・人口問題研究所



サードエイジ(55~74歳)=ネクストシニア+団塊世代

- ・「昔は出来ていたこと」ができなくなったら、**身体活動することが億劫になる**
- ・以前と同じように歩けるから、もっと歩こうとなれば、**機能低下度合を遅らせることができる**
- ・平均寿命の伸びよりも、健康寿命の伸びが大きければ、**ギャップが縮まり健康で長生きできる**

サードエイジ ネクストシニア
団塊世代+a 2018年: 55~67歳
2025年: 62~74歳
2018年: 68~74歳
2025年: 75~81歳 2,070万人
1,260万人 **3,330万人**





サードエイジが、「自らの身体」を使って、「充実した人生」を楽しめる

(何歳になっても、やりたい事をやれる。行きたい所へ行ける。会いたい人に会える…etc)

価値

高いQOL (Quality of Life)

その人自身の価値観や幸福感などに基づく、満足度の高い生活

便益

IADL (手段的日常生活行動 Instrumental Activity of Daily Living)

高度な日常生活動作を、自分でできる

(買い物、旅行、家事、食事の準備、洗濯、掃除、金銭・服薬管理等)

ADL (日常生活行動 Activity of Daily Living)

日常の基本動作を、自分でできる

(食事、排せつ、歩行、入浴など)

機能

身体活動の結果、運動機能が維持・向上

・運動機能 = 筋力/柔軟性/敏捷性/平衡性/筋持久力/心肺持久力/調整力

・「移動/持ち運び」に関係

- ・大腿四頭筋 : 膝を伸ばす動きや、敏捷性に関係
- ・大臀筋 : 大腿を後方に振る動き
- ・腹筋群/背筋群 : 上体を支える
- ・脊柱起立筋 : 姿勢保持や上体を起こす動き
- ・大腰筋 : 太ももを上げたり平衡性に関係

＜日常生活の困り事をサポート＞

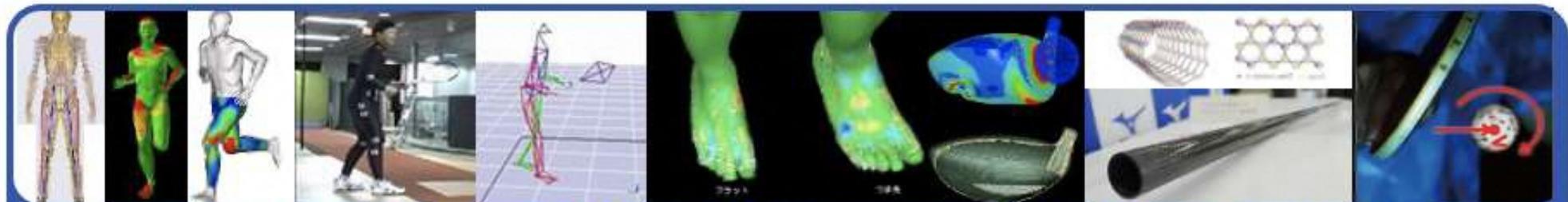
- ・移動 (階段、歩行)
- ・持ち運び
- ・姿勢変更や姿勢保持
- ・手指の操作

難易度順	行動内容	状態判定	
1	階段歩行	要介助	自立
2	ゴムズボン脱ぎ履き	要介助	自立
3	ズボン脱ぎ履き	要介助	自立
4	座位→立位	要介助	自立
5	洗体	要介助	自立
6	行動範囲の広さ	要介助	自立高齢者の 判別に有効な 項目
7	運搬	要介助	
8	歩行	要介助	
9	浴槽へ移動	要介助	
10	被りシャツの脱ぎ着	要介助	
11	立位保持	要介助	
12	トイレ使用	寝たきり	
13	字を書く	寝たきり	
14	仰臥位→座位	寝たきり	
15	寝返り	寝たきり	
16	トイレ移動	寝たきり	
17	食事	寝たきり	

↑
寝たきり高齢者の
判別に有効な
項目
↓



『運動機能の維持・向上・補完』でQOL実現・健康寿命延伸に貢献

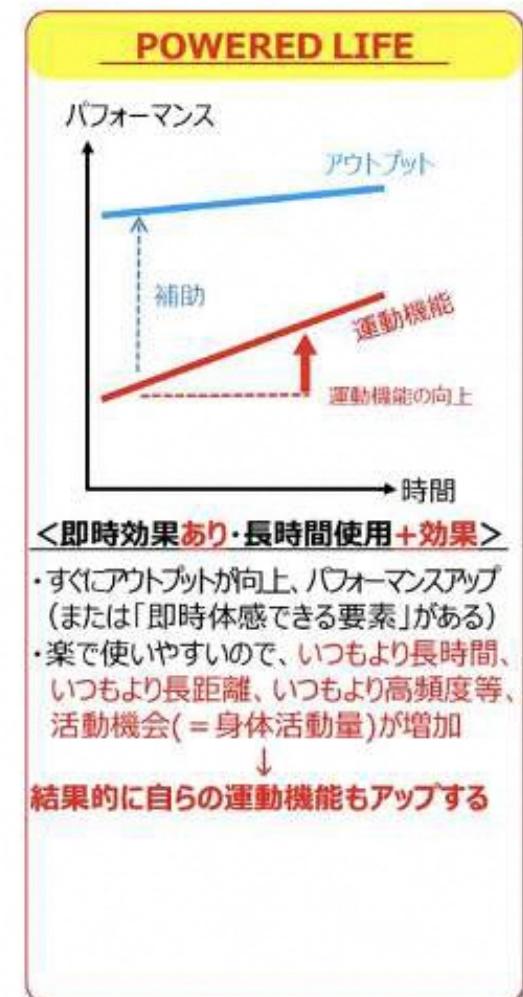
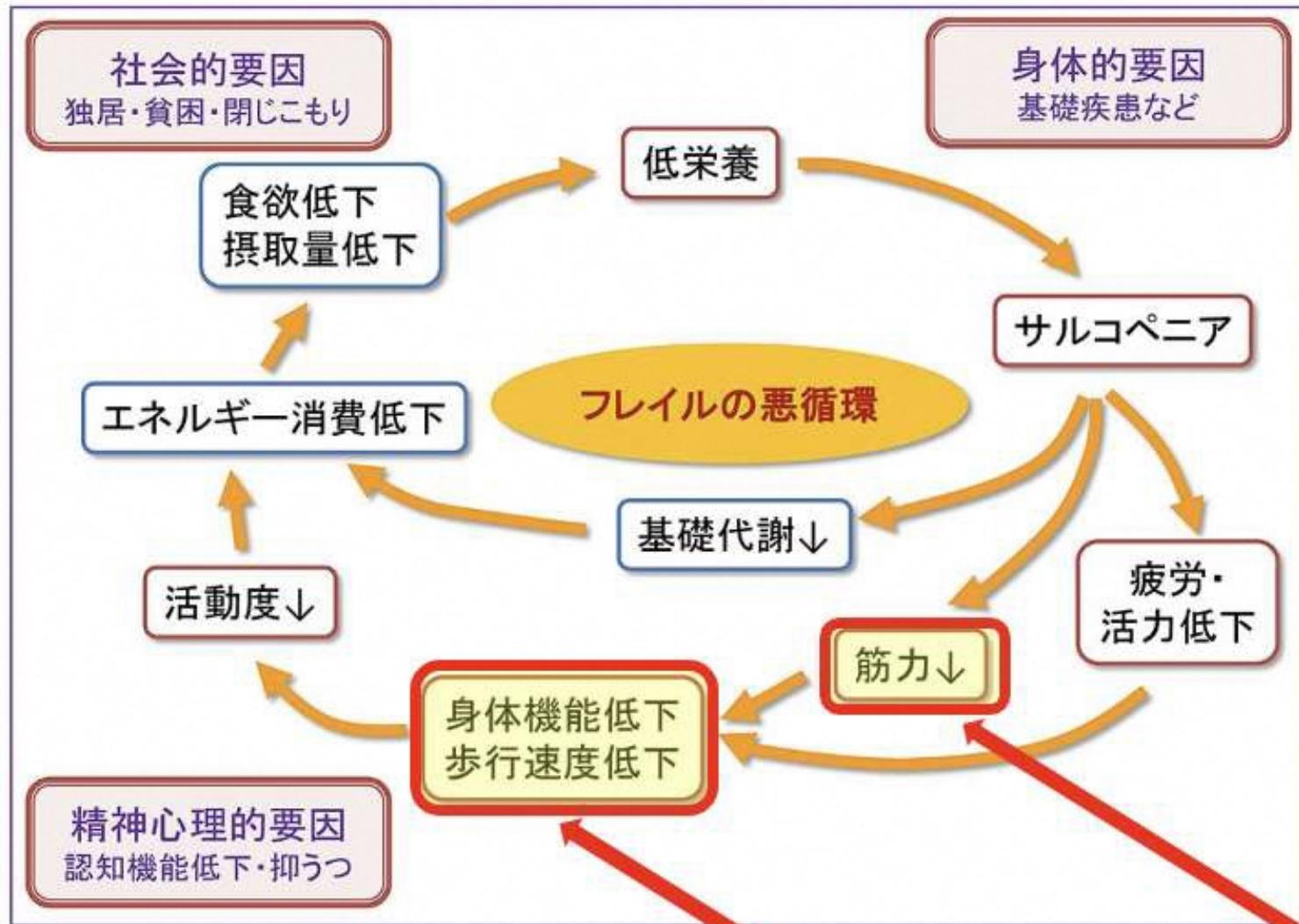


ミズノスポーツテクノロジー(ヒトを知る技術/構造の最適化/材料の最適化)の活用





図3 フレイルの悪循環



ここに直接介入するPOWERED LIFEの取り組みが世の中的に新しい試み。
この部分をサポートする→活動量UP→空腹→食事量UP→栄養UP→筋肉量UP…
というように、「正のサイクル」に戻せるかも（府立大/岩田教授談）

今後も、ここへの介入は継続
(従来型の筋力トレーニング品等)

1人でも多くの人が、1年でも長く、この階段を下りずに済むように！

